

参加申込書

※ご記入いただいた個人情報は石川地域づくり円陣の参加者集計やご連絡のために用います。また、石川地域づくり協会が関わる行事のお知らせに用いることもあります。

お名前 所属団体(または職業)

年齢(歳) 男・女 (イベント保険加入のため、年齢・性別のご記入をお願いいたします)

連絡先 テ

電話 () FAX ()
e-mail

*グループでの申込みの場合は、参加者全員のお名前、年齢、性別、希望分科会を明記した一覧表を別紙添付してください。

分科会の申し込み (希望分科会に印を付けてください)

- 第1分科会「資金調達の仕組みをいしかわに！」
- 第2分科会「域内連携と情報発信」
- 第3分科会「地域づくりの担い手は自分の組織の中にはいない？」
- 第4分科会「域内交流の拠点づくりとその運営」
- 第5分科会「そうだったのか！協働」

□交流会の申し込み (参加する・参加しない)

※会費1,000円+1,000円相当の地域特産物、または会費2,000円

□夜なべ談義の申し込み(19時30分～、会場「ザ・マツ」、参加費は実費) (参加する・参加しない)

各種エントリーの申し込み (エントリー希望の項目に印をつけてください。いくつでもエントリーできます。)

- 地域づくり「宝もの」コンペに出場する ※当協会の加盟団体の皆さんのが地域づくり活動を発表し、会場の参加者全員で審査する楽しいコンペです。審査結果は交流会で発表します。
- 交流会で地域特産物紹介に出場する
- 交流会で地域づくり活動PRに出場する
- 交流会でポスターセッションに出品する

一時保育希望の方はお子様の
お名前 年齢
お名前と年齢を記入してください。

会場周辺のホテル旅館情報を希望者に送ります (必要・不要)

オプショナル・ツアーを予定しています (予定を知りたい・不要)

※円陣の翌日(28日、日曜日)に現地見学など、地元団体主催の別企画を準備中です。ご希望の方に開催概要を送ります。

■申込締切 平成19年1月19日(金)

■申込み・問合せ 石川地域づくり協会事務局
〒920-8580金沢市鞍月1-1 石川県企画振興部地域振興課内
TEL.076-225-1312 FAX.076-225-1328
chiiki1@pref-ishikawa.lg.jp
<http://www.pref-ishikawa.jp/shinkou/dukurikyou/index.htm>

■申込方法 郵送またはFAX、e-mailにて受け付けます

応募要項

お好きな分科会を
お選びいただけます



《プログラム》

- 10:30 ▶ 受付 「石川県こまつ芸術劇場うらら」に受付があります
11:00 ▶ 開会
11:05 ▶ 地域づくり「宝もの」コンペ(vol.2)
地域のユニークな資源や活動などを発表し、
参加者投票で「円陣賞」を選定します。
発表団体募集中、詳細は裏面の申込書をご覧ください。
12:10 ▶ 休憩 (分科会会場へ移動してください)
12:50 ▶ 分科会受付 各分科会の会場に受付があります
13:00 ▶ 分科会開始
- 16:10 ▶ 休憩 (全体会場へ移動してください)
16:15 ▶ 全体会 ◆コーディネーターによる分科会報告
◆ゲストによる鼎談
17:30 ▶ 終了 (交流会参加者は会場へ移動してください)
17:30 ▶ 交流会受付 (参加費1,000円+1,000円相当の地域特産物持参のこと)
17:45 ▶ 交流会開始 ◆地域づくり「宝もの」表彰
◆活動PRや特産品紹介
19:30 ▶ 終了 ※夜なべ談義あります(ザ・マツ)にて、会費制)

1 資金調達の仕組みを いしかわに! 持続する地域づくり・市民活動のために 第1 分科会 【定員50人】

「持続可能な活動を支える資金調達」として、千葉県市川市では、市民が選んだ団体へ納税額の1%を支援できる「1%支援制度」を実施している。県内では、民間資金と補助金を合わせた地域づくり支援として七尾マリンシティ推進協議会による「七尾まちづくりアワード2006」が始まった。経界では、企業の社会貢献が注目されつつある。「1%支援制度」の松原審査委員長を招き、NPO・地域づくり団体の資金調達の仕組みを導入する土壤づくりについて情報交換、意見交換する。

● 松原 明 氏 (まつばら あきら)
市川市市民活動団体支援制度審査会・審査委員長
シーズ・市民活動を支える制度をつくる会事務局長として、長年わが国のNPOの支援制度づくりに各方面で活躍。全国のNPO・市民活動団体と協働による各種支援事業の他、国会へのロビー活動を通じて法制度の整備にも尽力。46歳。

【事例発表1】
七尾まちづくりアワード2006
中出 信行 氏 (なかでのぶゆき)
七尾マリンシティ推進協議会幹事

【事例発表2】
石川こども環境教育学習基金
櫻井 英二 氏 (さくらいいいじ)
NPO法人 石川こども環境教育学習基金事務局長
石川こども環境教育学習基金事務局長として、会員から集めた資金を使って、登録団体が行うこども達への環境教育活動の支援事業を行っている。平成14年からは、河北潟自然再生協議会として、毎月の水質調査と小学生による河北潟一斉水質調査を年1回行っている。かほく市出身、48歳。

● 濱 博一 (はま ひろかず)
石川地域づくり協会コーディネーター
市川市の1%支援制度について、設立当初からの審査委員長を務める松原氏から、経緯・意義・運用の実態などの説明を頂き、県内先進事例団体からも事例発表を頂く。分科会参加者と共に、持続する地域づくり・市民活動を支える資金調達の社会的な仕組みづくりについて議論を深め、本県地域での実現の可能性を探りたい。

2 域内連携と情報発信 具体的な事業が 連携と情報発信を促進する 第2 分科会 【定員30人】

地域づくり団体にとって情報発信力の強化は共通の課題である。インターネットの普及により情報発信の手段が身近なモノになった。次なる課題は発信するコンテンツ(内容)の充実である。ひとつひとつの団体の取り組みがたとえ小さくても、域内の団体が協力して情報発信すれば、地域の魅力が伝わるのではないかだろうか。能登で活動する団体や個人のネットワーク組織「能登ネットワーク」から「域内連携と情報発信」を考えてみよう。

● 数馬 嘉雄 氏 (かずま よしお)
NPO法人能登ネットワーク理事長
学習院大経済学部卒。ニチメン(現・双日)勤務などを経て、1969年創業の家業・数馬酒造の経営を引き継ぐ。数馬酒造(株)代表取締役、能登町商工会長、(株)能登百正代表取締役。能登ネットワークでは能登の三十三観音巡礼札所を案内するガイドブック『能登國三十三観音のたび』も発行している。

【事例発表】
岡本 紀雄 氏 (おかもとのりお)
能登ネットワーク事務局長
有限会社のと代表取締役
石川地域づくり協会運営委員

● 渡辺 保男 (わたなべ やすお)
石川地域づくり協会コーディネーター
能登ネットワークのメンバーはそれぞれの地域での活動を持ちつつ、ネットワークとしての活動を行っている。その組織の強みは事業ごとにチームや会社を組織するところにあるのではないだろうか。銀座8丁目「とだらぼち」経営のための「(株)能登百正」や、能登半島でのツーリズム実践のための「(有)のと」、「いしリフォーラム」、「地酒列車」。これらの活動はどこに向かっていくのか、じっくり語り合いたい。

3 地域づくりの担い手は 自分の組織の中にはいない? あなたは大学生のサポートを利用できる? 第3 分科会 【定員20人】

地域づくり活動は、その活動組織を常に外に開くことが重要なキーワード。若い人が入ってくると、とても楽しくなる。そんなことわかっているけど、どうしたらいいの? 身近なヒトばかり頼りにしていない? 大学生をインセンティブとして受け入れると、どんな良いことがあるの? 地域づくりの担い手はどうやって育てられる? 大学生との協働作業という切り口で、地域づくりの担い手育成を考える。

● 佐久間 康富 氏 (さくま やすとみ)
地域づくりインターンの会OB
早稲田大学教育・総合科学学術院助手
1974年埼玉県生まれ。1999年早稲田大学大学院修士課程修了。株式会社環境と造形を経て、同大学博士課程に進学、2003年より現職。都市計画の研究のかたわら、愛知県豊根村、千葉県浦安市などのまちづくりに参画。NPO法人まちしゅう理事。

【事例発表】
■ 街ゼミ
■ 金澤町家継承・活用研究会
■ 金沢大野くらくらアートプロジェクト実行委員会
■ 学生団体CO-NEXT

● 水野 雅男 (みずの まさお)
石川地域づくり協会コーディネーター
ゲストからは「外部からの地域づくり活動支援(大学生インターンシップ事業)の効能と使い方」について話していただき、インターンシップ事業の協力団体からは「どういう分野で外部から活動支援してもらっているか」を報告していただく。以上の報告から、議論のキーワードをいくつか列挙し、それに基づいてディスカッションする。

● 内山 博史 (うちやま ひろふみ)
石川地域づくり協会コーディネーター
ゲストから「拠点」が誰によってどう活用されているのかについて事例報告をいただき、「自分たちの施設の強みと弱み」を語り合う。会場の参加者を交え、活動の当事者の立場からどんな場所が望ましいのかを議論し、拠点づくりと運営の課題を考えてみたい。

開催趣旨「域内交流」

石川地域づくり協議会の活動は、前身の石川県地域づくり推進協議会(94年秋発足)から通算して13年目を迎えました。加盟団体も113団体になり、それぞれの地域でリーダーシップを發揮している団体も数多く見られます。その一方で、活動のマンネリ化や会員の減少などの問題を抱える団体が多いのも事実です。そこで今年度は加盟団体から生の声を聞くために県内4箇所で意見交換会を開催しました。意見交換会では様々な提案が出ましたが、「近隣団体との交流が自らの活動のヒントや刺激になる」との意見に多くの団体が賛同しました。地域づくりアワード2006ではこの提言に基づき「域内交流」をテーマに掲げました。域内の資源発掘、ご近所で活動する異分野の団体との連携や協働、市町と住民との連携や協働などについて、同じ問題を抱える者たちが集い、円陣を組んで考えたいと思います。

※域内とは「一番日の意味は「生活圈を共有する近隣の人や団体」のことです。この円陣での議論を通じ、「同じ領域(分野)で活動する人や団体」や「地域や領域が違って、活動目標を共有できる人や団体」にまで、域内交流を拡大していかないと考えています。

全体会 16:15~17:30

【第1部】分科会報告

各分科会のコーディネーターが分科会の重要な部分を簡潔にリポートします。

【第2部】鼎談

「交流を考える

／住民・市町・企業・大学

地域づくりには地域社会の構成員である住民、市町、行政、大学の連携や協働が不可欠です。それぞれの立場の違いを認め合いながら、交流を進めていくためには、どうすれば良いのでしょうか。セクター間のコーディネーターをされている3名の語り手に、交流の秘訣を聞きます。

語り手 菊池 新一 氏 (きくち しんいち)
遠野市地域経営課題対策本部長、
地域づくり実践講座(事例研究編)講師

松原 明 氏 (まつばら あきら)
シーズ・市民活動を支える制度をつくる会事務局長、第1分科会ゲスト

山口 洋典 氏 (やまぐち ひろのり)
同志社大学大学院総合政策科学研究科助教授、第4分科会ゲスト

コーディネーター

赤須 治郎 (あかす じろう)
石川地域づくり協会コーディネーター

交流会 17:45~19:30

■ 地域づくり「宝もの」コンペ 結果発表と表彰(賞金あり)

■ 地域特産品紹介(発表団体募集中)

■ 地域づくり団体PR(発表団体募集中)

■ ポスターセッション(参加団体募集中)

* 交流会は会費で行います。

* 参加希望者は会費1,000円と1,000円相当の地域特産物を持参してください。(特産物を持ってこないときの会費は2,000円になります)

* アルコール類は会費に含まれていません。
(会場で購入してください)

【会場のご案内】

